

カ
ラ

■ 国交樹立五十周年記念 スリランカ訪問・友好親善使節団…………… 1

● 世界平和祈願コロンボ大会基調講演「ダルマパーラの贈り物」…………… 18

● スリランカ名誉総領事ネルソン・ウイターナゲ様よりの御礼状…………… 38

● 朝も、昼も、夜も、逢うも、別れも アーユ・ボーワァン…………… 39

● 生活仏教の諸相…………… 佐々木 宏幹 90

● 暮らしの中で読む『正法眼蔵』面授の巻・その九…………… 小倉 玄照 98

● 韓国の寺院を訪ねて…………… 伊藤 博・伊藤 宣 106

● 前角老師提唱 繰り返し繰り返しの修行…………… 前角 博雄 118

■ 開創三十五周年記念…………… 125

● 開創三十五周年・修学僧育英会設立二十周年…………… 141

● 開創三十五周年記念講演 螢山紹瑾禪師に学ぶ…………… 木村 清孝 144

● 開創三十五周年記念式典 スリランカ全権委任日本大使アムヌガマ閣下御祝辞…………… 152

● 日域無双の禅林東香寺大乘寺に東 隆眞先生が晋山…………… 黒田 武志 156

● 講演 生きがいのある人生…………… 黒田 武志 163

● 日本で大乘仏教を見直す…………… 171

● バンコク週報より 日本人僧侶新米プラーヂーン…………… プラスチー松下 175

● 留学僧からの便り…………… 186

● 真野留学僧からの修学報告…………… 188

● ニュース・アラカルト…………… 192

カ
ラ

読

留学僧募集のお知らせ

190

読者のたより

200

編集後記

212

題字・イラスト 伊藤三喜庵

巻頭言

善光寺住職 黒田武志

仏道を篤く信じ、宗祖を通して釈尊に還る。

横浜善光寺は、この語を以って原点と位置づけ開創しました。不惜身命、歩みは早や三十五年を経過。

また寺檀一体の創意として発足した横浜善光寺留学僧育英会も時間的に成人に達し、櫛々に芽の出ずるが如くと申しますが、急激な国際化にあつて益々世界感覚と国際的視野をもつ人材育成の必要性が高まる時代の流れに應ずるが如く、派遣・受入全一一〇件、関係二十一カ国、本年度募集を以って第二十回を数えるに

至り。

檀信徒の皆様はじめ関係諸氏より、尊いご至誠とご浄財を賜り、そのお蔭を以って年年歳歳変わることなく実践継続できました。毎度の食事を一口分減らしてご協力ください、世界平和と仏法隆盛、その人材育成のためにと、都度お願いして参りました。

あらためて深謝、御礼申し上げます。

私は若い頃、世界中の仏蹟を訪ねながら、又海外での修行を重ねる中で、原点復帰、釈尊に還るといふことの大事に目覚め、信念ともなり今に至っています。従って育英会開創は、私の実践課題でもあったのです。

「法輪転ずるところ食輪転ず」仏天のご加護には常々感謝致しておるところです。み仏さまの智慧を頂き、全てを生かし育てる深い思いやりの心にこそみ仏の救いがあると信ずるのです。道元禅師は、布施・愛語・利行・同時の四つの徳目を挙げ、天地万物の深遠な道理、即ち衆妙の門だとお諭しになっております。育

英会という布施行も真理にかなっているのでありましょうか。途中様々な困難があり、はや限界か、今日一日の辛抱、そんな心を続けておりますと、なぜかことごとく実現する。いつも救われて、法の花は私の心にまかせて開き続けて参りました。

本年三月、日本・スリランカ国交樹立五十周年記念式典に、親善使節団総勢八十名の大旅団を結成、その代表・団長として訪れ、バンダラナイケ国際大ホールで「ダルマパーラの贈り物」と題して基調講演をさせて頂きました。政府と仏教界から国を挙げての大歓迎と、立錫の余地もない万雷のご聴講には、日本仏教と上座部仏教の新しい融合への予感と、時空を超え共感共鳴する、さながら曼荼羅の桃源郷を観せずにはおれません。

五月には大本山總持寺にて、内外各界お歴々と壇信徒約四百名の方々ご臨席のもと、寺院開創三十五周年と育英会発足二十周年記念法要・式典を盛大に執り行うことができました。

六月には、海外からの賓客・壇信徒の方々にもお使いいただく庫裡を兼ねた

梅嘉庵が落慶。書院も同時に完成し、蔵書十萬冊を整理、檀信徒の皆様にもご利用いただけると思います。

来年三月、最大の仏教国タイ、ブッダモンthonで開催される世界仏教大会に日本代表として、「真の教育」というテーマで基調講演を致す予定です。

更に九月、二つの大学（ハーバード大学・カリフォルニア大学）にて、「禅と道元・世界と仏教」というテーマでの講演も予定されています。

留学僧もそれぞれに成長し、各国各界で活躍致しております。幽かなともしびが、点々と大いなる松明になる予感がします。

いま明らかに世界は疲れています。原因となる徴候は多岐に亘り、理解しがたい現象は何か不安や恐怖さえ覚えます。この時なぜ仏教なのか、期待とその役割は重大且つ性急であるようです。私たちに今何ができるのか。何をなすべきなのか。微力であっても身命を尽くして、ご檀家の益々のご至福、ご隆昌を祈念しつつ、

仏法の伝承教化という今日只今の務めに最善を尽くしてゆく所存です。